

紀州徳川家伝来の 龍笛・能管について

Ryuteki/Nokan of the Heirloom of Kishu-Tokugawa Family

高桑いづみ

TAKAKUWA Izumi

はじめに

①龍笛

②能管

おわりに

【論文要旨】

紀州徳川家伝来楽器の内、国立歴史民俗博物館が所蔵する龍笛・能管あわせて27点について、熟覧及びX線透過撮影を通して調査を行った。

その結果、高精度の電子顕微鏡によって従来「平樺巻」とされてきた青柳(H-46-39)が、樺ではなく籐ないしカラムシのような蔓を巻いていたことが判明し、仏像の姿に成形した錘を頭部に挿入した龍笛があることが判明するなど、従来の調査では得られない成果が多々あった。一方、付属文書と笛本体が一致しない例もあり、笛が入れ替わった虞れも考えられる。たとえば能管の賀松(H-46-53)は、付属品や頭部の頭金の文様から、『銘管録』に載る「古郷ノ錦」ではないかと推測される。いつの時期か不明だが、コレクションの実態が混乱したようである。時期は不明だが、紀州徳川家のコレクションは少しずつ散逸してきた。その事実と照らし合わせながら、今後さらなる調査が必要になるであろう。

【キーワード】 日本音楽, 楽器学, 楽器, 雅楽, 能楽, 龍笛, 能管